

『故人との永遠の絆 -
心を込めた葬儀の準備』

プロローグ

葬儀への第一歩：葬儀の意義と心の準備

第1章：始まりの不安を解消する

1.1 葬儀の不安要素とその対処法

1.2 正しい知識の構築と心の準備

1.3 高額費用への懸念を解消

第2章：葬儀社選びの基礎知識

2.1 葬儀社の役割とサービスの理解

2.2 信頼できる葬儀社の見分け方

2.3 信頼できる葬儀社の見分け方

第3章：賢い予算管理と葬儀費用

3.1 葬儀費用の実際と理解

3.2 予算に合った葬儀の選び方と費用削減

3.3 費用削減の秘訣

第4章：葬儀の形式を選ぶ

4.1 伝統的葬儀とモダンな葬儀の比較

4.2 宗教と文化の考慮とその反映

4.3 パーソナライズされた葬儀の計画

第5章：パーソナライズされた葬儀の計画

5.1 故人の人となりを反映させる方法

5.2 家族や友人の思い出を形にする工夫

5.3 信頼関係の強化：初心者の葬儀社との対処法

第6章：葬儀の実践ステップ

6.1 葬儀の進め方マニュアル

6.2 葬儀後の手続きとサポートの提供

6.3 アフターサポートと相談窓口

第7章：遺された家族へのメッセージ

7.1 悲しみを乗り越えて前を向くために

7.2 新しい章の始まりとしての葬儀

7.3 最終決定への道のり

第8章：終わりに - 安心して一歩を踏み出すために

8.1 読者へのメッセージ

8.2 行動を起こすための第一歩

1. 故人の思い出を振り返る:

2. 家族や友人との対話:

3. 情報収集と葬儀社選び:

4. チェックリストの作成:

5. 心の準備とケア:

8.3 葬儀の進め方 簡単マニュアル

1. ご臨終の対応:

2. 葬儀社の手配:

3. 打ち合わせと計画の立案:

4. 火葬場の予約と式の執行:

5. 出棺と火葬:

6. 葬儀後の手続きと法要:

第9章 葬儀終了後の法要・法事について

◆仏式の法要:

◆キリスト教式の記念日:

神式の靈祭:

「家族の心に寄り添う葬儀社 - あなたの大切な人をお送りします」

セルディア館でのご葬儀

◆株式会社セルディ

◆セルディア館

エピローグ

プロローグ

葬儀への第一歩：葬儀の意義と心の準備

愛する人の最後の旅立ちを前にしているあなたへ。

もしこの本を手に取ったとしたら、それはあなたが大切な判断を迫られている証かもしれません。

私が葬儀業界に足を踏み入れて 20 年が経ちますが、初めは祖父母の葬儀のことさえも思い出せないほど、知識も経験もありませんでした。

しかし、この仕事を通じて、沢山の真実、間違った認識に遭遇しました。

そして、一番大切な事、故人を思う心、

残された家族の心に寄り添う葬儀のあり方を学びました。

私が伝えたいのは、葬儀はただの儀式ではなく、故人への愛と敬意、そして家族の新たな出発点であるということです。

紹介業者に頼るのではなく、自らの心と直感を信じ、故人にふさわしい葬儀を選ぶ勇気を持ってください。

皆さん一人ひとりが、愛する人を失った悲しみを抱え、何をどう進めていいか不安に思うこともあるでしょう。

でも、ご安心ください。

あなたのその気持ち、私はよく理解しています。

そんなあなたに向けて、私が学んだ知識と経験をすべて注ぎ込んだのがこの本です。

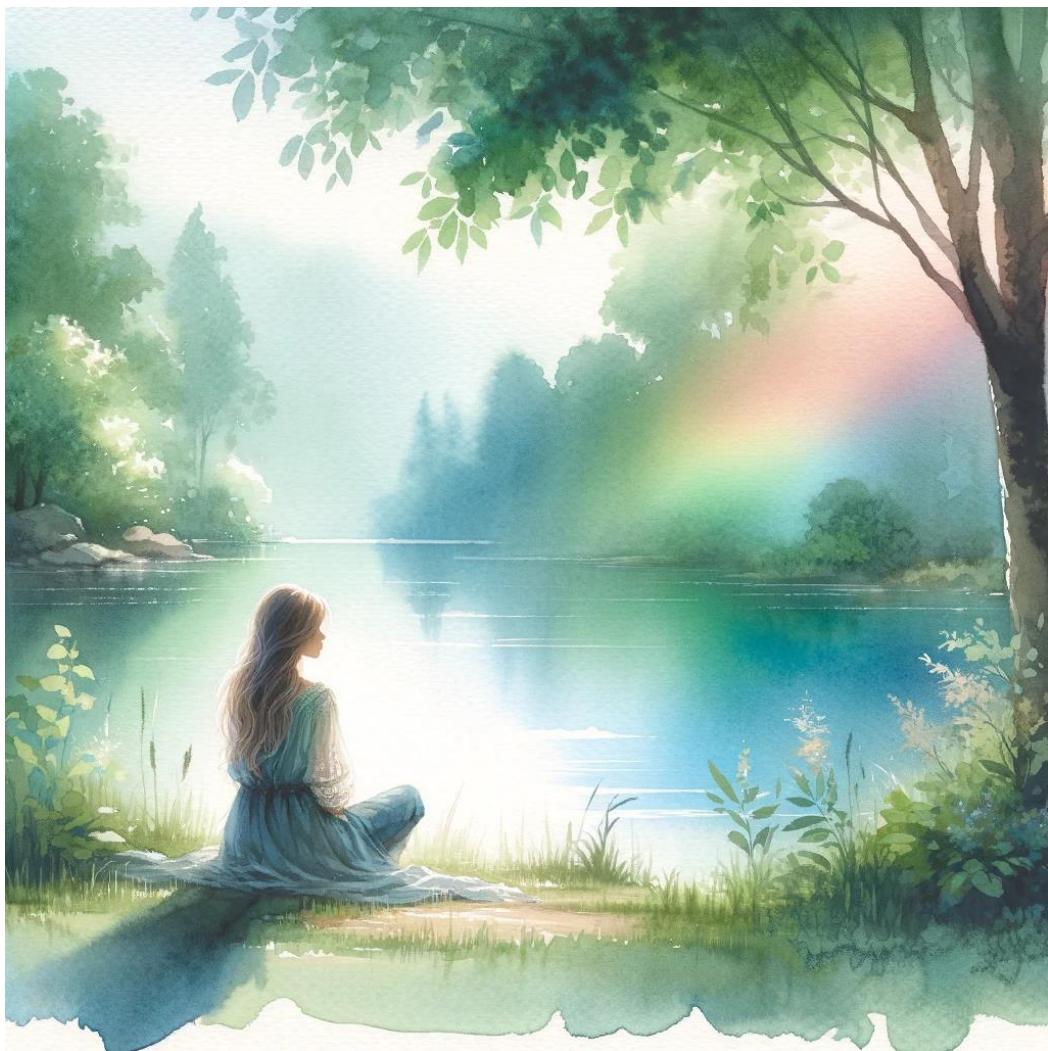
この本を通じて、あなたが自信を持って葬儀の準備ができるよう願っています。

大切な人の最後の旅立ちの時、心穏やかに、そして確かな一歩を踏み出せますように。

この本が、あなたにとっての小さな灯りとなれば幸いです。

あなたの相談窓口はこちら

公式ライン <https://lin.ee/I4LgaJM>



第1章：始まりの不安を解消する

1.1 葬儀の不安要素とその対処法

親が歳を取り、体の不調を訴え始めると、私たちはさまざまな感情に直面します。

この章では、そんな時に抱く不安や心理状態を深く掘り下げ、読者が同じ道を歩む際の指針となるようにします。

まず、親の健康が衰えることに対する心配や不安は、誰もが感じる自然な反応です。これは、愛する人への深い愛情の表れであり、多くの人が似たような経験をしています。

「誰でも思うことは一緒」なのです。

そして、この不安は、「もしもの時」に備えるきっかけにもなります。

特にご長男、又は家族の柱となる方にとっては、職場と家庭の双方で責任を担う立場であるため、親の健康問題は大きな心理的重圧となります。

これは、家族の柱としての自覚に由来するものです。親のケアを考えることは、自分自身の将来や家族の未来についても考えさせられる瞬間です。

ここで重要なのは、このような心理的な葛藤は決して一人だけのものではないということを認識することです。多くの人が同じような状況を経験し、似た葛藤を持ってています。

「この本を読めば失敗はしない」を信条に、困難な状況に対処するための具体的なアドバイスを提供します。

また、親の不調と向き合うことは、自分たちの生活や計画に影響を及ぼすかもしれません。

これは、将来の葬儀を含め、どのように親を支えることができるかを考え始める良い機会です。感情に流されず、現実的な準備と計画を進めることが肝心です。

葬儀の準備は簡単ではありませんが、これは親への愛と尊敬を表現する方法の一つです。

愛する人への最後の贈り物として、葬儀を心を込めて準備することは、故人への敬愛を形にする大切なプロセスです。

「保存版としてまた、この本に必要なことを書き込んでおくと同じことで悩まなくなります」。この本は、葬儀の準備と心のケアに関する貴重なガイドとなり、困難な状況に対処するための準備と心の平穏を取り戻す手助けとなるでしょう。



1.2 正しい知識の構築と心の準備

葬儀社を選ぶことは、多くの不安を伴います。

特に、これまでそのような経験がない場合、どこから始めればよいのか、何を基準に選べば良いのか分からぬことが多いです。

ここでは、葬儀社選びにおける一般的な不安要素と、それらをどのように解消していくかについて考えます。

最初の大きな不安要素は、「どの葬儀社を選べば良いのか」という点です。

葬儀社は大手から地域に根ざした小規模なものまでさまざまあり、それぞれに特色やサービス内容が異なります。また、インターネット上には情報があふれていますが、どの情報が信頼できるのか判断するのは難しいです。

次に、費用の問題があります。葬儀は高額な費用がかかることが多く、どの程度の費用を見積もるべきか、また、不必要的費用を払わないためにはどうすればよいのか、ということについての不安があります。

また、葬儀社に対してどのように要望を伝え、自分たちの希望する葬儀を実現するかという点も、大きな懸念事項です。特に、故人の意志を尊重しつつ、家族の感情や状況に合った葬儀を計画することは、簡単なことではありません。

これらの不安要素を解消するためには、まず情報収集から始めることが大切です。

信頼できる葬儀社を見つけるためには、インターネットの情報だけでなく、地域の口コミや知人からの推薦も参考にするとよいでしょう。

次に、葬儀の費用に関しては、事前に予算を決め、それに基づいて葬儀社と相談することが重要です。

また、見積もりを複数の葬儀社から取ることで、費用の比較が可能になります。

最後に、自分たちの希望を葬儀社に伝える際には、明確に要望をリストアップし、それをもとに話し合うことが大切です。

これにより、故人に相応しい、心に残る葬儀を実現することができるでしょう。

この章では、これらの不安要素を一つ一つ解消し、葬儀社選びにおいて安心して進めるための具体的なアプローチをご紹介します。



1.3 高額費用への懸念を解消

葬儀にかかる費用に対する懸念は、多くの人にとって大きな重荷です。このセクションでは、葬儀費用への懸念を解消し、賢い予算管理の方法について探ります。

葬儀の費用については、単に金額だけで判断するのではなく、その内容を詳細に理解することが重要です。

現代の葬儀は多くの場合、パッケージプランで提供されることが一般的ですが、その中に含まれるサービスと追加で必要となるサービスを正確に把握する必要があります。

パッケージに含まれるものと追加費用が何であるかによって、実際の費用は大きく変わってきます。

たとえば、基本的なパッケージには、式場の使用料、棺、運搬、基本的な儀式の進行が含まれていることが多いですが、返礼品や追加の装飾、特定の宗教的な儀式などは追加費用が必要となることがあります。

また、葬儀社によっては、一見同じようなプランでも、サービスの詳細や品質に違いがあるため、細かな点まで確認することが肝心です。

葬儀費用の見積もりを比較する際は、単に金額だけでなく、提供されるサービスの質や範囲を詳細に比較検討することが大切です。

また、葬儀社に対して、包括的な見積もりを依頼し、どのようなサービスが追加料金として発生する可能性があるのか、明確に説明を求めましょう。

このセクションでは、葬儀費用の理解を深め、無駄な出費を避けるためのアドバイスを提供します。

予算内で最適な葬儀を行うためには、葬儀社の提案するパッケージの内容を正確に理解し、必要なサービスとそうでないものを見極めることが重要です。

費用の懸念を解消し、心に残る葬儀を実現するために、この情報が皆さん之力となることを願っています。

第2章：葬儀社選びの基礎知識

2.1 葬儀社の役割とサービスの理解

葬儀社は、故人を送り出すための重要な手助けをしてくれる存在です。

しかし、多くの人にとって葬儀社の役割や提供するサービスについては、よくわからないことが多いでしょう。

ここでは、葬儀社がどのような役割を果たし、どんなサービスを提供しているのかを、わかりやすく解説します。

葬儀社の主な役割は、葬儀の企画と実施をサポートすることです。

これには、故人の運搬、棺の手配、葬儀の場所の準備、儀式の進行、返礼品の手配など、多岐にわたる業務が含まれます。

葬儀社はこれらの業務を通じて、故人とその家族に敬意を表し、最後のお別れの場を提供します。また、葬儀社は故人の宗教や文化に合った儀式を手配することも重要な役割です。

日本では仏教式の葬儀が一般的ですが、キリスト教式や無宗教式など、様々なスタイルの葬儀があります。

葬儀社は、家族の希望に合わせて適切な儀式を手配し、故人の意志を尊重します。

さらに、葬儀社は、葬儀後の手続きのサポートも提供します。

これには、死亡証明書の取得支援や法要の手配、遺品整理のアドバイスなどが含まれることがあります。葬儀社は、葬儀だけでなく、その後のプロセスもサポートすることで、故人の家族が落ち着いて次のステップに進めるように助けます。

この章では、葬儀社が提供する様々なサービスを具体的に紹介し、葬儀社の役割をより深く理解していただきます。

これにより、どのような葬儀社を選べば良いか、また、葬儀社に何を期待できるかについての不安を解消することができるでしょう。



2.2 信頼できる葬儀社の見分け方

葬儀社を選ぶ過程で、最初にとるべきステップは、実際に葬儀社へ電話をかけることです。

この直接的なアプローチは、葬儀社の対応を感じ取り、信頼できるかどうかを判断する上で非常に重要です。

このセクションでは、電話でのアプローチの方法と、何を確認すべきかを具体的に説明します。

まず、電話をかける前に、何を知りたいのか、どんな質問をするのかを明確にしておくことが重要です。

基本的な質問としては、葬儀の種類やサービス、費用の概算、日程の調整可能性などがあります。また、自分たちの希望を伝え、それに対応できるかどうかも確認しましょう。

電話の応対は、葬儀社のプロフェッショナリズムを測るバロメーターとなります。

親切で丁寧な対応か、それとも急いでいるか、無関心かなど、電話でのやり取りから葬儀社の対応を感じ取ることができます。

特に、敏感な時期においては、心を込めた対応が求められます。

また、電話のみで対応するオペレーターがいる場合、実際に葬儀を行うスタッフとの直接のコミュニケーションが取れないことがあります。

そのため、電話で直接葬儀に関わるスタッフと話ができるかどうかを確認することも大切です。これは、細かな要望や疑問を直接相談できるかどうかに影響します。

もし電話で話していて何か違和感を感じたら、それは重要なサインです。

不安を感じる対応や曖昧な返答は、その葬儀社が自分たちのニーズに合わない可能性があることを示しています。

葬儀は非常に個人的で感情的なイベントであるため、信頼できる葬儀社を選ぶことが何よりも重要です。

この章では、電話でのアプローチの方法を具体的に説明し、葬儀社選びの第一歩を踏み出すためのガイドラインを提供します。

この一歩が、葬儀社との信頼関係を築く基盤となり、後のプロセスをスムーズに進める助けとなるでしょう。



2.3 信頼できる葬儀社の見分け方

葬儀は、愛する人を送り出すための大切な儀式です。

この大切な時において、信頼できる葬儀社を選ぶことは、故人への敬意と遺族の心のケアに直結しています。

ここでは、信頼できる葬儀社を見分けるための具体的なポイントを解説します。

透明性の確認

- 明確な説明: 信頼できる葬儀社は、葬儀のプランやサービス内容、費用に関して、明確かつ詳細な説明を提供します。

これにより、ご遺族はどのようなサービスを受けられるのか、どの程度の費用がかかるのかを正確に理解できます。

- 隠れ費用の確認: 透明性を持つ葬儀社は隠れた費用がなく、全ての料金を正直に開示します。
- 追加料金が発生する場合も、その理由と条件を事前に説明し、遺族が納得の上で決定できるようにします。
- 見積もりの精査: 提供された見積もりを精査し、疑問点があれば葬儀社に質問します。信頼できる葬儀社は、その質問に対しても正確で誠実な回答を提供します。

信頼できる葬儀社の選び方は、故人への最後の責任として、ご遺族にとって非常に重要な決定です。

透明性を確認し、すべての疑問に納得のいく答えを得られる葬儀社を選ぶことで、心穏やかに故人を送り出すことができます。

このセクションを通じて、ご遺族が葬儀社を選ぶ際の一助となれば幸いです。

その他の確認ポイント:

- 事務所の存在: インターネット葬儀社の場合、実際の事務所が存在するかを確認しましょう。

事務所がない場合、サービスの質に疑問を持つことがあります。

- スタッフの身だしなみ: スタッフの身だしなみ、特にスーツの着こなしが整っているかどうかは、その葬儀社の信頼性を示します。
- 電話で対応、又は対面で対応してくれた本人が、担当になって動いてくれるのか確認しましょう。

担当とは名前ばかりで、動いてくれる人が違う場合があります。

この章では、信頼できる葬儀社を見極めるための具体的なポイントを紹介します。

これにより、あなたとあなたの家族にとって最適な葬儀社を選ぶための道筋が明確になるでしょう。

葬儀は故人への最後の敬意として非常に重要なものです。

だからこそ、信頼できる葬儀社を選ぶことが、その大切な儀式を適切に行うための第一歩となります。

第3章：賢い予算管理と葬儀費用

3.1 葬儀費用の実際と理解

葬儀を行う際には、多くの家族が費用の問題に直面します。

ここでは、葬儀にかかる費用の実際と、それに含まれる項目について、わかりやすく解説します。

葬儀の費用は、大きく分けて三つの部分から成り立っています。

第一に、基本的な葬儀サービス費用です。これには、式場の使用料、棺、遺体の安置と移送、僧侶へのお布施、葬儀の進行管理などが含まれます。

これらは葬儀社によって異なり、選ぶ葬儀の形態によっても費用が変わります。

第二に、追加サービスの費用です。

返礼品、お花、食事など、葬儀で提供する追加のサービスにも費用がかかります。

これらは必要に応じて選ぶことができ、費用を抑えるために省略することも可能です。

第三に、葬儀後の費用です。

これには、墓地や納骨堂の費用、四十九日法要などの後の儀式に関わる費用が含まれます。これらは葬儀の直接的な費用ではありませんが、トータルの費用を考える際には重要な要素です。

葬儀費用は、一般的に数十万円から数百万円の間で変動します。

しかし、費用が高いほど良い葬儀とは限りません。

大切なのは、故人を尊重し、家族の希望に合わせた葬儀を行うことです。

予算に応じて、無理のない範囲で最適なプランを選ぶことが重要です。

この章では、葬儀にかかる費用を具体的に理解し、それに基づいて予算を計画する方法をご紹介します。

これにより、家族にとって無理のない範囲で、故人にふさわしい葬儀を実現するための手助けとなるでしょう。

葬儀の費用を事前に把握し、適切に計画することで、経済的な負担を軽減しながら、故人を尊重した葬儀を行うことができます。



3.2 予算に合った葬儀の選び方と費用削減

葬儀の計画を進める際、最も重要なのは予算に合った選択をすることです。このセクションでは、予算に応じた葬儀の選び方と、賢いプランニング方法について説明します。

まず、葬儀を計画する際に優先すべき点を決定します。

重要なのは、①料金、②規模、③親戚の意向の中で何を最も重視するかを明確にすることです。これにより、葬儀の方向性が決まり、予算の配分もより明確になります。

次に、やりたいことを予算内に組み込んでみましょう。

例えば、①祭壇の花の種類や量、②死化粧のスタイル、③参列者へのお食事の提供などをリストアップします。

こうした要素を最初に考慮に入れることで、全体の予算をより現実的に計画することができます。

その後、予算の範囲内で最適なプランを作成します。必要なサービスや要望をリストアップした後、予算内で実現可能な範囲で調整を行います。

例えば、高価な祭壇の花を選ぶ代わりに、お食事の内容をシンプルにするなど、バランスを取ることが重要です。

不必要的オプションやコストがかかる要素は削減することで、予算内の葬儀が可能になります。

この章では、予算に合わせた葬儀の選び方を具体的に紹介し、葬儀のプランニングにおける賢い予算管理の方法を提供します。

予算に基づいて適切な葬儀を計画することで、故人を尊重し、家族の負担も軽減することが可能です。予算に合った葬儀の選び方を理解し、故人への最後のお別れを心に残るものにしましょう。

3.3 費用削減の秘訣

葬儀の費用削減にはいくつかの方法があり、適切なプランニングにより家族の経済的負担を軽減しつつ、故人への敬意を表すことが可能です。

このセクションでは、予算に合った葬儀を実現するための具体的な方法を提供します。

1. 家族葬を検討する:

家族葬は、親族や親しい友人だけを招待し、費用を大幅に削減できます。小規模でありながら、故人との深い絆を感じられるメリットがあります。ただし、参列できなかつた人が後日自宅を訪れることによる家族の負担の増加や、大切な友人や親族が葬儀に参加できないことによる社会的な期待とのギャップを考慮する必要があります。

2. 無駄なオプションサービスを省く:

葬儀のプランに含まれるオプションサービスには、必ずしも必要ではないものが含まれることがあります。豪華な花飾りや高価な棺、葬儀後の食事会などは、予算に応じて調整可能です。これらのサービスを削減することで、葬儀全体の費用を抑えることができます。

3. 比較見積もりを取り:

複数の葬儀社から見積もりを取り、サービス内容と価格を比較します。葬儀社によって価格設定が異なるため、同じサービスをより経済的な条件で提供する葬儀社を選ぶことが可能です。

4. 事前相談とプランニング:

事前に葬儀社と相談し、予算内で実現可能なプランを考えます。事前の計画を立てることで、急な出費を避け、無駄な費用を削減できます。

5. 地域の支援制度を利用する:

一部の自治体では葬儀に関する支援制度が設けられています。これらの制度を利用することで、費用負担を軽減できる場合があります。

この章では、葬儀費用を削減するための実践的なアプローチを提供し、予算に合った葬儀を実現するための方法を詳しく説明します。

家族の経済的な負担を軽減し、故人への敬意を表すための適切なプランニングが重要です。



第4章：葬儀の形式を選ぶ

4.1 伝統的葬儀とモダンな葬儀の比較

葬儀のスタイルは、伝統的なものからモダンな形式まで多岐にわたります。このセクションでは、それぞれの葬儀スタイルの特徴と選び方について掘り下げます。

伝統的葬儀の特徴:

伝統的な葬儀は、故人の宗教や文化に基づいた儀式で行われます。

日本においては、仏教式の葬儀が一般的で、お寺の僧侶が読経し、故人の魂の安息を祈ります。伝統的な葬儀は、遺族にとって精神的な慰めとなり、故人への最後の敬意を表す重要な儀式です。

モダンな葬儀の特徴:

一方、モダンな葬儀は、より自由な形式で行われることが特徴です。

宗教的な要素を取り入れず、故人の人生を祝福する形で進めることが多く、個人の意向や家族の希望に合わせてカスタマイズできます。

しかし、お寺の僧侶を招かない場合、葬儀の進行には司会者が必要となります。

これは、葬儀の流れをスムーズに進め、後悔を避けるための重要な役割を果たします。

選び方のポイント:

葬儀のスタイルを選ぶ際には、故人の信仰や遺族の希望を考慮することが重要です。

伝統的な葬儀は、故人の宗教に基づいた形式で行うことで、故人への敬意を表します。

一方、モダンな葬儀は、故人の人生を祝福し、家族や友人との思い出を共有する場として適しています。

この章では、伝統的葬儀とモダンな葬儀の違いとそれぞれのメリットを紹介し、家族に合った葬儀スタイルの選び方を提案します。

どのスタイルを選ぶにしても、故人への愛と尊敬を形にすることが最も重要です。

葬儀は故人と遺族の願いを反映する大切な儀式であり、それぞれの家族にとって最適な選択ができるようになります。



あなたはどんな風にお見送りをして差し上げますか？

◆供花 ご親戚の方(喪主、子供一同、孫一同)又は会社からお花を送りたいと言われることもあります。そんな時は、他の花屋さんからではなく葬儀をお願いする葬儀社にお願いするのが良いでしょう。祭壇と違和感のないように、バランス、色とコーディネイトをしてくれます。



左から税込み 16500 円 22000 円 33000 円 全国共通です。〈2024年現在〉

4.2 宗教と文化の考慮とその反映

葬儀を計画する際には、宗教と文化を考慮することが非常に重要です。このセクションでは、宗教的な儀式の選択と、それに伴う考慮事項について詳しく解説します。

宗教的な要素の重要性:

葬儀において宗教は、故人の信仰や遺族の文化的背景を反映する重要な要素です。特に、宗教的な儀式は故人の精神的な安寧を願う手段として、また遺族にとっての慰めの手段として重視されます。

お寺の僧侶の手配:

日本の仏教式葬儀では、お寺の僧侶が中心的な役割を果たします。

しかし、お寺の知り合いがない場合、多くの葬儀社は僧侶の紹介を行っています。この場合、読経や儀式の費用は約 **15** 万円前後で収まることが一般的です。

ただし、費用が極端に安い場合は注意が必要です。

低価格で提供されるサービスの中には、質の低いものやアルバイトの僧侶を使用している場合もあるためです。

宗教的な選択の重要性:

宗教的な要素の選択は、故人の信仰や家族の価値観に基づいて行うべきです。

また、宗教によっては特定の儀式や手続きが求められるため、事前に葬儀社や関連する宗教団体に相談することが大切です。

文化的背景の尊重:

葬儀は、故人の文化的背景を反映し、家族や友人がその人生を振り返る場でもあります。

そのため、故人の文化や伝統に合った葬儀を行うことが、故人への最大の敬意となります。

この章では、葬儀における宗教と文化の考慮について詳しく説明し、適切な宗教的な儀式の選択方法を提供します。

宗教と文化を尊重することにより、故人を心を込めて送り出すと同時に、遺族にとっての心の慰めを提供することができます。

葬儀は、故人と遺族にとって重要な意味を持つ儀式であり、その選択は慎重に行う必要があります。

4.3 パーソナライズされた葬儀の計画

葬儀は、故人への最後の敬意を表す大切な機会です。

近年、故人の個性や人生を反映したパーソナライズ（個別化）された葬儀が注目されています。このセクションでは、パーソナライズされた葬儀の計画方法について考えます。

パーソナライズされた葬儀とは、故人の趣味、好きなもの、生き方などを葬儀に取り入れることで、その人らしいお別れを演出するものです。

例えば、故人が好きだった音楽を式中に流したり、趣味や興味をテーマにした飾りつけをしたりすることができます。

このような葬儀を計画する際、まず重要なのは、故人の人となりを家族で共有することです。

故人の好きだった色、音楽、花、旅行先など、小さなことでも故人を思い出す要素を集めましょう。

これらの情報が、葬儀のテーマや内容を決定する手がかりとなります。

次に、葬儀社と綿密にコミュニケーションを取り、故人の特徴を葬儀にどのように反映させるかを話し合います。葬儀社の中には、パーソナライズされた葬儀に対応した経験やアイデアを持つところも多く、彼らの提案を参考にすることができます。

また、パーソナライズされた葬儀では、故人への手紙を読む、家族や友人による思い出話を共有するなど、参列者全員が故人を偲ぶ時間を設けることも意味があります。

これにより、故人ととのつながりを感じながら、心温まるお別れの時間を過ごすことができます。

この章では、パーソナライズされた葬儀の計画方法と、そのためのアイデアを具体的に紹介します。

故人の個性や思い出を葬儀に反映させることは、家族にとっても貴重な経験となり、故人への最後の敬意を表す素晴らしい方法です。

第5章：パーソナライズされた葬儀の計画

5.1 故人の人となりを反映させる方法

葬儀に関する多くの「常識」は、実は誤解や古い概念に基づいていることがあります。このセクションでは、葬儀に関する一般的な誤解を明らかにし、正しい知識を身につけることで、失敗しない葬儀の計画方法を考えます。

まず、葬儀には「正しい方法」があるという誤解です。葬儀は地域や宗教、家族の伝統によつて異なり、一つの正解は存在しません。

重要なのは、故人の意志と家族の希望に合った形式を選ぶことです。

次に、葬儀は高額である必要があるという誤解です。

葬儀の費用は、プランによって大きく異なります。高価なプランを選ぶほど良い葬儀とは限らず、予算内で心に残る葬儀を計画することが可能です。

また、「伝統的な葬儀を行うべき」という考え方も、時には誤解に基づくものです。

伝統的な葬儀が適している場合もありますが、故人のライフスタイルや家族のニーズに合わせたパーソナライズされた葬儀が適していることもあります。

葬儀社に全てを任せることも、慎重に考えるべきです。

葬儀社は大きなサポートを提供しますが、最終的な決定は家族が行うべきです。家族の意見や故人の意志を葬儀社に伝え、共にプランを考えることが重要です。

この章では、葬儀に関する誤解をクリアにし、正しい情報に基づいた葬儀計画の重要性を強調します。

誤解を「破壊」し、正しい知識を「構築」することで、最終的には家族にとって最適な葬儀を「強化」することができます。

故人を尊重し、家族が納得できる葬儀を行うためには、これらの誤解を避けることが不可欠です。

5.2 家族や友人の思い出を形にする工夫

葬儀社を選ぶ際、大手葬儀社と地元の個人葬儀社との間には明確な違いがあります。このセクションでは、それぞれの特徴を理解し、どちらが適切かを判断するためのポイントを解説します。

大手葬儀社の特徴:

- 事務的な対応: 大手葬儀社では、プロセスがシステム化されており、場合によっては事務的な対応となることがあります。スタッフは多くが派遣で、葬儀は日々の仕事となっています。
- 個人的な配慮の欠如: 大規模な運営で個々のニーズに対応しきれない場合があります。

地元葬儀社の特徴:

- 個人的な対応: 地元葬儀社では、年配の男性が中心となり、地域の文化に沿ったサービスを提供しますが、時に配慮に欠けることがあります。
- 信頼のおける人材: 葬儀社を選ぶ際の最も重要なポイントは「人」です。信頼のおけるスタッフかどうかは、話してみることでわかります。

誠意を持って接してくれるかどうかが、葬儀社選びの重要な基準です。

葬儀社選びのポイント:

- 対応と信頼性: 葬儀社のスタッフとの初対面や会話を通じて、その対応の仕方や誠実さを見極めることが肝心です。
- 価格とサービス: 大手葬儀社は一般的に価格が安定しているものの、地元葬儀社はより柔軟なサービスが期待できることもあります。
- ただし、低価格過ぎる場合は質に疑問を持つべきです。

この章では、大手葬儀社と地元葬儀社の違いを理解し、故人と遺族にとって適切な葬儀社を選ぶためのガイドラインを提供します。

葬儀は故人への最後の敬意を表すと同時に、遺族の心のケアにも大きく関わるため、信頼できる葬儀社を選ぶことが非常に重要です。

5.3 信頼関係の強化: 初心者の葬儀社との対処法

葬儀を計画する際には、葬儀社との信頼関係を築くことが非常に重要です。

特に初めて葬儀社を利用する場合、不安や疑問を感じることが多いでしょう。

このセクションでは、初心者でも葬儀社と効果的にコミュニケーションを取り、信頼関係を強化する方法について解説します。

まず、葬儀社を選ぶ際は、事前にインターネットや口コミで情報収集を行いましょう。

葬儀社の評判や経験、提供されているサービスに関する情報を集めることで、信頼できる葬儀社を見極めることができます。

ただ、インターネット社会では、広告だけに騙されないように、知識のない葬儀社も多くいます。

しっかりとした内容の提示がない場合、葬儀社側が分かっていないこともあります。

おかしいなと思ったら、しっかり聞きましょう。

葬儀社との初めての面談では、故人について、また家族の希望や不安についてオープンに話すことが大切です。

故人の人生や性格、家族の望む葬儀のスタイルについて詳細に話すことで、葬儀社はより適切な提案を行うことができます。

また、葬儀のプランや費用に関する質問は、納得がいくまで何度も聞きましょう。

葬儀に関する知識がない場合、専門用語が分からなかったり、費用の内訳が不明瞭だったりすることがあります。

わからない言葉などは、わからないことを伝えましょう。

決して恥ずかしいことはありません。誰でもわからないのは同然です。

疑問点は早い段階で明確にしておくことが重要です。

葬儀社に対する信頼は、時間をかけて築かれます。

葬儀の計画や準備の過程で、定期的にコミュニケーションを取り、状況を共有することで、信頼関係は強化されます。

また、葬儀社からの提案やアドバイスを受け入れることも、信頼関係を深める一つの方法です。

この章では、葬儀社との信頼関係を「強化」するための実践的なアプローチを提供します。

葬儀社との良好な関係を築くことで、故人にふさわしい、満足のいく葬儀を行うことができるでしょう。

葬儀は最後の別れの場であると同時に、家族にとって新たな始まりの場でもあります。

信頼できる葬儀社との関係を築くことは、この大切な時期を乗り越えるための鍵となります。

第6章：葬儀の実践ステップ

6.1 葬儀の進め方マニュアル

葬儀後には、さまざまな手続きが必要となります。

特に金融関係の手続きには注意が必要です。このセクションでは、故人名義の銀行口座や保険に関する手続きについて解説し、適切な対応を行うためのポイントを提供します。

1. 死亡届の提出:

葬儀の直後に最も重要なのは、死亡届を市区町村役場に提出することです。これは通常、医師が発行する死亡診断書を基に行います。

死亡届は故人の住民登録がある役所に提出し、この手続きを行うことで、故人の死亡が法的に認められます。

2. 遺族年金の手続き:

故人が年金受給者だった場合、遺族年金の手続きを行う必要があります。

これには、年金事務所に遺族年金請求書を提出し、必要な書類を添えることが含まれます。

遺族年金の受給資格や金額は、故人の年金の種類や家族構成によって異なります。

3. 銀行口座や保険の手続き: 故人が保有していた銀行口座の解約や生命保険の請求は、葬儀後に 行う重要な手続きです。

これらの手続きには、死亡証明書や必要な請求書類を銀行や保険会社に提出することが必要です。

しかし、ここには特別な注意が必要です。

注意点:

- ・役所と銀行の非連携: 役所と銀行は連携していません。

そのため、遺族が銀行に故人の死亡を通知しない限り、口座はそのままの状態が続けます。

故人の死亡を銀行に通知した時点で、その口座は全て凍結されます。

- ・適切なタイミングの選択: 口座が凍結されると、故人名義の資産にアクセスできなくなるため、生活費や葬儀費用の支払いに影響が出る可能性があります。

そのため、銀行への連絡は慎重に行い、必要な資金を引き出した後に通知することが望ましいです。

手続きの進め方:

- 計画的な対応: まずは必要な資金を確保し、その後で銀行や保険会社に必要な手続きを進めます。
- 専門家のアドバイス: 不明な点がある場合は、専門家や銀行の相談窓口にアドバイスを求めることも有効です。

故人名義の銀行口座の解約や、生命保険の請求など、金融関係の手続きも必要です。

これには、銀行や保険会社に死亡証明書や請求書類を提出し、適切な手続きを行います。

◆死亡診断書のコピー

※二度と手に入りません。役所に再発行を依頼の場合 1万円がかかります。

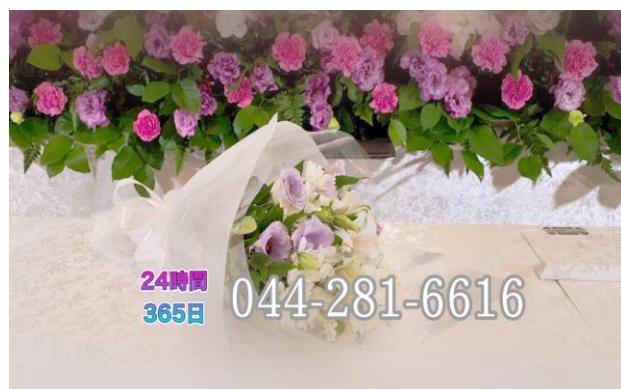
4. その他の手続き:

その他にも、故人名義の不動産の名義変更、車の名義変更、携帯電話やインターネット契約の解約など、さまざまな手続きが必要になります。

これらの手続きは、故人の所有物や契約内容によって異なります。

この章では、葬儀後の金融関係の手続きについて詳しく解説し、遺族が直面する可能性のある問題点とその解決策を提供します。

これらの手続きは葬儀後の遺族にとって重要なプロセスであり、計画的かつ慎重に行うことが重要です。故人の財産を適切に管理し、後のトラブルを避けるためにも、これらのポイントに注意してください。



6.2 葬儀後の手続きとサポートの提供

葬儀を終えた後、残された家族は様々な感情と向き合う必要があります。喪失の悲しみ、孤独感、時には生活の変化への不安など、葬儀後の期間は心理的にも非常にデリケートです。このセクションでは、残された家族のケアに焦点を当て、どのようにサポートするかを解説します。

1. 喪失感との向き合い方:

故人を失う悲しみは、一定の期間をかけてゆっくりと受け入れていく必要があります。家族や友人とのコミュニケーションを大切にし、感情を分かち合うことが重要です。また、故人を思い出し、話すことで、悲しみを共有し、徐々に癒やされていきます。

2. 日常生活への復帰支援:

葬儀後は日常生活への復帰が求められますが、すぐに通常の生活ペースを取り戻すことは難しいかもしれません。家族や友人からのサポート、職場やコミュニティでの理解を得ることが、復帰をスムーズにします。必要に応じて、短期間の休暇を取ることも検討しましょう。

3. 心のケアとカウンセリング:

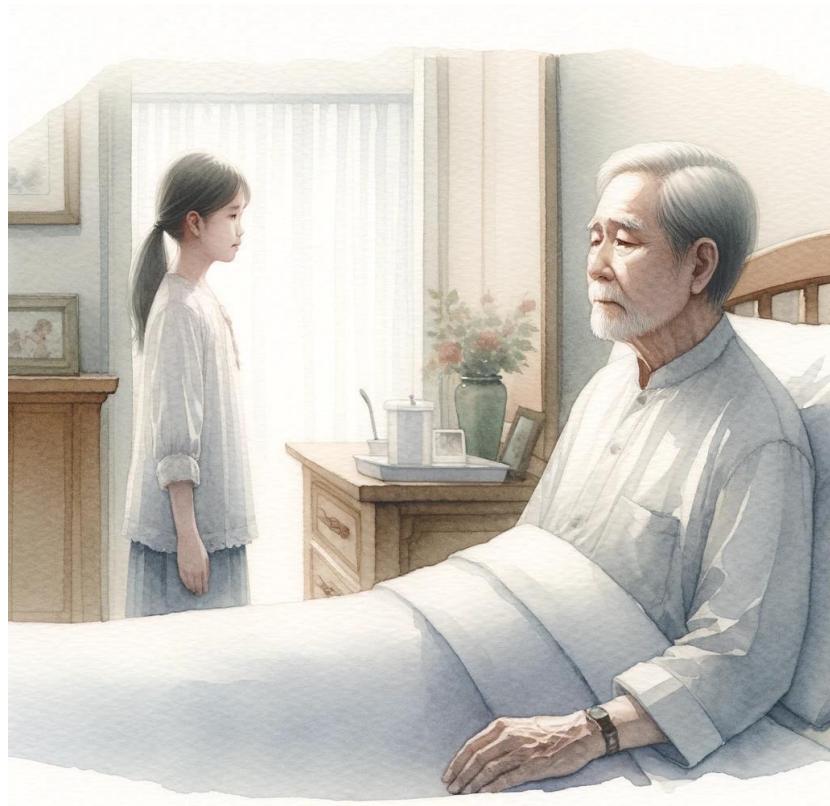
深い悲しみや喪失感に苦しむ場合は、心理的なサポートを求めるのも一つの方法です。専門のカウンセラーや心理療法士に相談することで、感情の整理や新たな生活への適応を助けることができます。

4. 記念行事の計画:

故人を記念する行事や儀式を計画することも、喪失感に対処する手助けとなります。故人の誕生日や命日に小さな集まりを開く、思い出の場所を訪れるなど、故人を思い出し、生前の美しい思い出を振り返ることで、徐々に心の平和を取り戻すことができます。

この章では、残された家族の心のケアに焦点を当て、喪失感と向き合う方法、日常生活への復帰、心のケア、記念行事の計画などについて具体的に説明します。

葬儀後のケアは、家族が新たな生活へと進むための大切なステップであり、適切なサポートを受けることが、喪失の悲しみを乗り越える助けとなります。



6.3 アフターサポートと相談窓口

葬儀が終わった後も、家族は多くの感情や課題に直面します。

この時期には、適切なアフターサポートや相談窓口の存在が非常に重要です。このセクションでは、葬儀後に利用できるサポートサービスと相談窓口について詳しく解説します。

1. 葬儀社のアフターサポート:

多くの葬儀社では、葬儀後も様々なサポートを提供しています。

これには、法事の手配、遺品整理、墓地や納骨堂の相談などが含まれます。葬儀社によっては、心のケアをサポートするサービスも提供していることがあります。

これらのサービスを利用することで、葬儀後のさまざまな課題をスムーズに解決できます。

2. 専門の相談窓口:

遺族が直面する法的、財務的な問題については、専門の相談窓口を利用する 것이助けになります。

例えば、相続や税金に関する相談は、弁護士や税理士などの専門家に依頼すると良いでしょう。また、心のケアが必要な場合は、カウンセリングサービスを利用するのも一つの方法です。

3. コミュニティや支援団体:

地域のコミュニティや支援団体からもサポートを受けることができます。

これには、遺族サポートグループや地域のボランティア団体が含まれます。これらの団体は、経験を共有したり、具体的なアドバイスを提供したりする場を提供します。

4. 自助グループやオンラインコミュニティ:

インターネットを活用して、遺族向けの自助グループやオンラインコミュニティに参加することも一つの選択肢です。同じ経験を持つ他の人々と情報を交換したり、相互にサポートし合うことができます。

この章では、葬儀後の家族が直面するさまざまな課題に対して、どのようにサポートを受け、相談できるかを具体的に紹介します。

適切なアフターサポートと相談窓口を利用することで、葬儀後の過程をよりスムーズに、そして心の平穀を保ちながら進めることができます。

葬儀後の手続きだけでなく、心のケアも大切な部分であり、これらのサポートを活用することができます、新たな生活への第一歩となります。

第7章：遺された家族へのメッセージ

7.1 悲しみを乗り越えて前を向くために

葬儀社を選ぶプロセスは、適切な情報収集から始まります。この初期段階で集めた情報は、葬儀社選びの基盤となり、後の決定を導く重要な役割を果たします。このセクションでは、葬儀社選びにおける効果的な情報収集の方法について解説します。

1. オンラインでの情報収集: 葬儀社を選ぶ過程で最初に行うべきは、適切な情報収集です。このセクションでは、インターネットを利用した情報収集の方法とその注意点について解説します。

オンラインでの情報収集の利点:

- 広範囲の情報: インターネットは、葬儀社のウェブサイト、口コミサイト、フォーラムなどを通じて、多岐にわたる情報を提供します。これらの情報源を活用することで、葬儀社のサービス内容、料金、利用者の評価などを比較検討することができます。

オンライン情報の限界と注意点:

- ウェブサイトの質と実際のサービス: インターネット上の情報、特にウェブサイトは、資金をかけば洗練されたデザインや内容にすることができます。

しかし、ウェブサイトが洗練されているからといって、その葬儀社のサービスの質が高いとは限りません。ウェブサイトの見た目だけでなく、実際のサービス内容や運営の質についても慎重に評価する必要があります。

- 中身と実際の一致: オンライン上で評判や情報は参考になりますが、中には実際のサービスの質が伴っていない葬儀社も存在します。そのため、オンラインで得た情報はあくまで参考程度にとどめ、直接葬儀社に問い合わせを行うことが重要です。

情報収集のポイント:

- 多角的な視点: オンラインでの情報収集は、広範囲の情報を得るために出発点となります。しかし、実際のサービス内容や運営の質を確認するためには、直接葬儀社とのコミュニケーションや、可能であれば施設の見学など、より具体的な情報収集を行うことが望ましいです。

この章では、葬儀社選びにおける効果的な情報収集の方法と、オンライン情報の活用とその限界について詳しく説明します。適切な葬儀社を選ぶためには、多角的な情報収集が不可欠で

す。オンラインでの情報収集をスタート点とし、直接のコミュニケーションや現地確認を通じて、最終的な選択を行うことが重要です。

インターネットは、葬儀社の情報を収集する上で非常に便利なツールです。

葬儀社のウェブサイト、口コミサイト、フォーラムなどを利用して、サービスの内容、料金、利用者の評価などを確認しましょう。

しかし、オンラインの情報は参考程度にとどめ、最終的な判断は直接葬儀社とのコミュニケーションに基づいて行うことが重要です。

2. 口コミや地域情報の活用 - スタッフ構成の重要性

葬儀社選びにおいて、スタッフの性別や年齢構成は、提供されるサービスの質に大きく影響を与えます。ここでは、特に女性スタッフの有無が葬儀社のサービスにどのような影響を与えるかについて考察します。

女性スタッフの有無とサービスの質:

- 細やかな配慮の欠如: 女性スタッフがいない葬儀社では、細やかな配慮や心遣いが欠けることがあります。女性特有の視点や感性は、葬儀の際に重要な役割を果たすことが多く、遺族や参列者への配慮、特に女性の遺族や参列者に対する細かな気配りが不足する可能性があります。
- 女性スタッフの役割: 女性スタッフは、葬儀の際の接客やコミュニケーションにおいて重要な役割を果たします。しかし、「大奥」のような古いタイプの女性スタッフではなく、現代の葬儀にふさわしい接客スキルと感性を持つ女性スタッフが望ましいです。



スタッフのプロフェッショナリズム:

- 接客の重要性: 葬儀は、その本質が接客業であることを忘れてはなりません。

スタッフには、遺族や参列者に対する適切な対応や心遣いが求められます。一部の葬儀社のスタッフがこの重要なポイントを忘れている場合があり、その結果としてサービスの質が低下してしまうこともあります。

葬儀社選びの際の考慮点:

- スタッフの性別と年齢構成: 葬儀社を選ぶ際には、スタッフの性別や年齢構成に注目し、特に女性スタッフの有無や役割を確認します。
- スタッフの接客姿勢: 口コミや地域情報を活用する際には、スタッフの接客態度やプロフェッショナリズムについての評価も重要です。直接葬儀社を訪れて、スタッフの対応を見ることが推奨されます。

この章では、葬儀社のスタッフ構成がサービスの質に与える影響を考慮し、適切な葬儀社選びのためのアドバイスを提供します。葬儀は遺族と故人にとって重要なイベントであるため、スタッフの質と対応が葬儀の成功に直結します。適切なスタッフ構成とプロフェッショナルな接客態度を持つ葬儀社を選ぶことで、故人への敬意と遺族の心のケアを適切に行うことができます。

3. 資料請求と比較:

葬儀社を選ぶ過程で重要なステップの一つが、資料請求とサービスの比較です。

この段階での適切な情報収集と分析が、最終的な選択に大きく影響します。以下では、資料請求と比較の際の重要なポイントについて詳しく解説します。

資料請求の重要性:

- 包括的な情報収集: 葬儀社から直接資料を請求することで、サービス内容、料金体系、提供されるオプションなどの包括的な情報を得ることができます。

比較のポイント:

- 価格の比較とその内容: 金額の比較は非常に重要ですが、同時に提供されるサービス内容を詳細に検討する必要があります。

安価なプランの場合、必要なサービスが含まれていないことが原因で安い場合があります。

- 明確な質問の重要性: 葬儀社への質問は明確に行いましょう。

特に「提供されるサービスで全てがカバーされているか」、「追加料金が必要になるサービスは何か」については、はっきりと確認することが大切です。

- 人件費とサービスの質: 人件費が多くかかる葬儀社では、サービスの質が高い傾向がありますが、それに伴い料金も高くなることが一般的です。

スタッフの質や経験、専門性を考慮した上で、料金を評価することが重要です。

資料請求と比較の方法:

- 複数の葬儀社から資料を入手: 競合する葬儀社から資料を請求し、それぞれのプランと料金を比較します。
- サービス内容と価格の詳細な比較: 提供される各サービスの内容と、それに伴う料金を詳細に比較します。

追加料金が必要なサービスや、プランに含まれるものと含まれないものを明確に区別します。

この章では、葬儀社選びにおける資料請求と比較の方法を詳しく解説し、適切な葬儀社選びに向けた実践的なアドバイスを提供します。

資料請求を通じて得られる情報は、最終的な葬儀社の選択において非常に重要な基盤となります。適切な情報収集と丁寧な比較により、故人と遺族にとって最適な葬儀社を選ぶことが可能となります。

4. 直接の問い合わせと面談:

実際に葬儀社に電話をかけたり、訪問したりして、直接スタッフと話をすることも大切です。この時、具体的な質問を準備し、サービスの詳細や料金について詳しく聞くことが重要です。また、葬儀社の対応や雰囲気を直接感じることで、その葬儀社が家族のニーズに合っているかどうかの判断材料になります。

この章では、葬儀社選びにおける情報収集の重要性と、効果的な方法を具体的に紹介します。適切な情報収集は、後のステップをスムーズに進めるための基盤となり、家族にとって最適な葬儀社を見つけるための第一歩です。正しい情報をもとに、家族の希望に合った葬儀社を選ぶことが、故人への敬意と愛情を形にする重要なステップとなります。

7.2 新しい章の始まりとしての葬儀

葬儀社選びの過程で、初めて葬儀社と直接面会する機会は、非常に重要です。この初対面は、葬儀社との信頼関係を築き、サービスの質を判断するための貴重な時間となります。このセクションでは、葬儀社との初対面でのポイントと、有意義な面談を行うためのアドバイスを提供します。

1. 準備と期待の設定:

面談前には、葬儀に関する基本的な希望や質問をリストアップしておきます。これには、葬儀の形式、予算、特別な要望などが含まれます。明確な期待を持って臨むことで、具体的かつ効率的なコミュニケーションが可能になります。

2. 葬儀社の対応と雰囲気の確認:

葬儀社を選ぶ際には、直接訪問してスタッフの対応や葬儀場の雰囲気を確認することが重要です。この段階では、葬儀社が提供するサービスの質を見極める重要な手がかりを得ることができます。

スタッフの対応の重要性:

- 親切かつ丁寧な態度: 葬儀社のスタッフは、親切かつ丁寧な態度で対応することが求められます。これは、遺族との信頼関係の構築に不可欠です。スタッフの対応が硬い、無関心、または不適切な場合、サービス全体の質について疑問を持つべきです。
- 敏感な時期への配慮: 葬儀社のスタッフは、遺族が非常に敏感な時期にあることを理解し、適切な態度と言葉遣いを心がけるべきです。

葬儀場の雰囲気の評価:

- 清潔で整備された環境: 葬儀場の環境は清潔で整備されている必要があります。これは、故人への敬意を示すと同時に、遺族や参列者に対する配慮の表れです。
- 落ち着いた雰囲気: 葬儀場の雰囲気は落ち着いており、遺族や参列者が故人を静かに偲ぶことができる環境であることが望ましいです。

対応と雰囲気の確認の重要性:

- サービスの質の指標: スタッフの対応と葬儀場の雰囲気は、葬儀社が提供するサービスの全体的な質を反映しています。親切で丁寧なスタッフの対応と清潔で整備された葬儀場は、高品質なサービスを提供します。
- 直接の観察による評価: オンラインでの情報収集や口コミ情報は有用ですが、最終的な評価は直接葬儀社を訪れ、自身の目で確かめることが重要です。

この章では、葬儀社のスタッフの対応と葬儀場の雰囲気を評価する方法について解説し、それらが葬儀社のサービスの質をどのように反映しているかを考察します。

適切な葬儀社の選択は、故人への敬意と遺族の心のケアに直接関わるため、これらの要素の確認は非常に重要です。直接訪問による観察と評価を通じて、最適な葬儀社を選ぶための判断材料を得ることができます。

3. 詳細な質問と要望の伝達:

葬儀の詳細について、分からぬことや不安な点は遠慮せずに質問しましょう。また、故人の人生や性格を反映した特別な要望があれば、この時点で伝えることが重要です。葬儀社がこれらの要望にどのように応えるかが、サービスの質を判断するうえでの重要なポイントになります。

4. 提案とフィードバックの交換:

葬儀社から提案されたプランに対して、家族の意見やフィードバックを伝えます。葬儀社が家族の意見に耳を傾け、柔軟に対応する姿勢を見せるかどうかは、信頼関係を築く上で非常に重要です。

この章では、葬儀社との初対面での重要なポイントを詳しく説明し、有意義な面談を行うためのガイドラインを提供します。葬儀社との初対面は、最終的な葬儀社選びの決定に大きく影響

するため、準備と積極的なコミュニケーションが鍵となります。故人にとって最適な葬儀を実現するためには、このステップを丁寧に進めることが不可欠です。



7.3 最終決定への道のり

葬儀社の最終選択に至るまでの過程は慎重な検討と決断を要します。以下は、葬儀社選びの最終ステップにおける重要なポイントです。

1. 情報の再評価と比較:

- 徹底的な見直し: 収集した情報、葬儀社との面談や見積もりを再度検討します。各葬儀社の長所と短所をサービスの内容、料金、対応の質、家族の感覚や直感など、様々な角度から比較検討します。

2. 家族との共有と意見交換:

- 家族の合意形成: 葬儀社の選択は家族全員に影響を及ぼします。したがって、情報を家族と共有し、意見を交換することが重要です。故人の意志と家族の希望や感情を考慮し、全員が納得できる決定を目指します。

3. 最終的な確認と交渉:

- 詳細な確認と調整: 最終的に選んだ葬儀社との間で、プラン、料金、サービス内容について詳細な確認を行います。必要に応じてプランの調整や料金の交渉を行うことも重要です。この段階で全ての疑問を解消し、不明瞭な点が残らないようにします。

4. 契約と準備の開始:

- 契約の締結: 最終決定が下されたら、葬儀社と正式な契約を結びます。契約内容を慎重に読み理解し、同意した上で署名します。その後、葬儀の準備に着手し、葬儀社と密接に連携して計画通りに進めます。

注意点:

- 葬儀相談会の限界: 葬儀相談会は一つの会社に偏る傾向があり、広範な選択肢を提供しないことが多いです。

- 紹介会社の利用に関する注意: インターネットの広告で目立つ紹介会社は、実際に葬儀を行わず、葬儀社への紹介によって収益を得ています。これにより、葬儀社が提供できるサービスが制限されることがあります。

この章では、葬儀社を選ぶ最終段階の重要なステップを詳しく解説し、最適な選択をするためのガイドラインを提供します。故人への最後のサービスとして葬儀社を選ぶことは非常に重要であり、適切な葬儀社を選ぶことが、故人を尊重し、家族にとって意味のある葬儀を実現するための鍵です。

第8章: 終わりに - 安心して一歩を踏み出すために

8.1 読者へのメッセージ

この本を通して、葬儀の準備という難しい旅と一緒に歩んできました。最後に、読者の皆さんへ向けたメッセージをお伝えします。

葬儀の準備は、故人への最後の敬意を表すとともに、遺された家族にとっては新たな始まりの一歩でもあります。

このプロセスは、ただ事務的な手続きを進めるだけでなく、故人との思い出を振り返り、喪失感と向き合う大切な時間です。

私たちは、葬儀を通じて故人との関係を見つめ直し、残された人生をどのように生きるかを考える機会を得ます。

悲しみを乗り越え、前を向くことは簡単ではありませんが、それは故人への愛と尊敬の表れでもあります。

この本が提供する情報やアドバイスが、皆さんの葬儀準備の手助けとなり、少しでも心の平穏をもたらすことができれば幸いです。

葬儀は終わりではなく、遺された家族の新しい章の始まりです。故人を心に留めながら、残された人生を全うする勇気と力を得てください。

故人を偲びながら、これから的人生を前向きに生きていくために、この本が皆さんの一助となれば幸いです。

心からの感謝を込めて、最後に皆さんへのメッセージとさせていただきます。故人の思い出を胸に、新たな一歩を踏み出しましょう

8.2 行動を起こすための第一歩

この本を閉じた後、葬儀の準備や手続きに関して行動を起こすための第一歩を踏み出すことが大切です。ここでは、読者が具体的な行動を起こすためのガイドラインを提供します。

1. 故人との思い出を振り返る:

まず、故人と過ごした時間を振り返り、故人の生き方や価値観を思い出しましょう。これは、葬儀の計画において故人を尊重するための重要なステップです。

2. 家族や友人との対話:

故人との関係を深く知る家族や友人と話し合い、葬儀に反映させたい要素を共有します。この対話を通じて、故人への愛と尊敬を葬儀に込めることができます。

3. 情報収集と葬儀社選び:

葬儀に関する情報を収集し、信頼できる葬儀社を選ぶ準備を始めます。インターネット、口コミ、地域の情報を活用し、複数の葬儀社から見積もりを取り比較検討しましょう。

4. チェックリストの作成:

葬儀に関する具体的な要望や必要な手続きをリストアップし、計画的に進められるようにします。これにより、漏れや誤解を防ぎ、スムーズな準備が可能になります。

5. 心の準備とケア:

葬儀の準備は心理的にも負担が大きいため、自身の感情と向き合い、必要に応じて家族や友人、専門家からのサポートを求めることが大切です。

この章で提供する行動計画は、葬儀に向けた具体的なステップを示しています。

この本を読んだ後、実際に行動を起こすことで、故人を尊重し、家族の希望に合った葬儀を実現することができます。故人との最後の別れを、尊厳と愛情を込めて行うために、この第一歩を踏み出しましょう

8.3 葬儀の進め方 簡単マニュアル

葬儀の進め方は、故人と遺族の意向を尊重しつつ、複数のステップを踏むことが重要です。

以下に、葬儀の基本的な流れと注意点を示します。

1. ご臨終の対応:

- 病院での対応: ご臨終が病院であった場合、病院から葬儀社の紹介を受けることがあります。
- しかし、病院の提案する葬儀社に限定せず、『葬儀社を決めますので待ってください』と伝えることが重要です。
- 「とりあえず運びます」は断る: 病院側が「とりあえず運ぶ」と提案することがありますが、これには費用が発生します。

必要に応じて断り、自分たちで葬儀社を選ぶ時間を確保しましょう。

2. 葬儀社の手配:

- 葬儀社への連絡: 葬儀社に連絡し、故人を迎えてもらう手配をします。
- 故人のご安置先の希望も伝えましょう。
- 病院への連絡: 病院に葬儀社の到着時間伝え、死亡診断書を受け取ります。

3. 打ち合わせと計画の立案:

- 安置場所と打ち合わせの設定: 故人を安置する場所を決め、葬儀社との打ち合わせを設定します。
- 葬儀の形式: 仏式、キリスト教式、無宗教、神式など、葬儀の形式を決定します。
- 菩提寺の手配: 菩提寺がある場合は、僧侶の都合を確認し、必要に応じて葬儀社からの紹介も受けます。

4. 火葬場の予約と式の執行:

- 火葬場の予約: 地域によって火葬場の予約状況は異なります。東京では3~5日、川崎では7~10日後の予約が一般的です。
- 式の執行: 葬儀の式典を行い、初七日法要は多くの場合、式中に行われます。

5. 出棺と火葬:

- 出棺: 故人を火葬場に向けて出棺します。
- 火葬場での精進落とし: 火葬後、精進落としを行うことが可能です。

6. 葬儀後の手続きと法要:

- ご自宅の祭壇設置: 葬儀が終わった後、故人を祀るための祭壇をご自宅に設置します。
- 四十九日法要の準備: 仏式の場合は本位牌の準備が必要です。宗教によって異なる儀式や準備があります。

この章では、葬儀の進め方について、ご臨終から葬儀後の手続きまでの一連の流れを具体的に説明します。

適切な葬儀社の選択から火葬場の予約、式の執行、葬儀後の準備まで、慎重に進めることができます。

これらのステップを丁寧に進めることで、故人への敬意を表し、遺族の心のケアを適切に行うことができます。

第9章 葬儀終了後の法要・法事について

葬儀終了後には、宗教や文化に基づいたさまざまな法要や記念行事が行われます。ここでは、主要な宗教の慣習について詳しく解説します。

◆仏式の法要:

- 初七日から四十九日までの法要: 仏式では、死亡後初七日から四十九日の忌明けまで、7日ごとに法要を行います。
- 年忌法要: 死亡した翌年の命日に一周忌、満2年目に三周忌などの年忌法要を行います。
- 参列時の服装と香典: 法要に参列する際は、喪服か地味な平服で構いません。香典は不祝儀袋に「御仏前」（浄土真宗を除く四十九日前は「御靈前」「御香料」と表書き）として持参します。



◆キリスト教式の記念日:

- プロテスタントの記念会: 死亡した日から**7**日目と**1**か月目に記念会を行います。
- カトリックの追悼ミサ: カトリックでは、**3**日目、**7**日目、**1**ヶ月目に追悼ミサを行います。

ミサの後に会食が開かれことがあります。

会食に招かれた場合は、白か淡い色の花、または「御花料」として金包みを持参します
(蓮の花の印刷や型押しされた袋は用いません)。



神式の靈祭:

- 精霊祭の実施: 神式では、「靈祭」を行います。翌日祭から始まり、十日祭、二十日祭、三十日祭を経て、五十日祭で忌明けとなります。年忌法要に相当するのが式年祭です。
- 精霊祭への参列と香典: 精霊祭に招かれた場合、金包みを持参し、「御玉串料」「御榊料」と表書きし、水引は銀1色または白黒を使用します。又、略式もご対応可能です。

この章では、葬儀後に実施される各宗教に基づく法要や記念行事の概要と、その際の参列者のマナーや香典の準備について説明します。これらの儀式は、故人を偲び、遺族の心の癒しを促す重要な役割を担っています。各宗教の慣習に応じた適切な対応をすることで、故人に対する敬意を示し、遺族や参列者の心のケアを行うことができます。



「家族の心に寄り添う葬儀社 - あなたの大切な人をお送りします」



あなたのそばでお悩みを解決いたします。

あなたの家族のように、私たちは故人様へ深い敬意とご遺族様の感情に寄り添う葬儀を提供致します。

私たちがおすすめする葬儀社は、温かみのある対応と細やかなサービスで、多くの家族から深い信頼を寄せられています。

経験豊富なスタッフが、故人様最後の旅立ちを丁寧にサポートし、ご家族の負担を軽減します。

私たちには以下のことをお約束します:

- 故人様の意志を尊重したオーダーメイドの葬儀プラン
- 透明性のある料金体系で、予期せぬ追加費用はいただけません
- ご家族の意見を最優先し、心の通った打ち合わせ
- 葬儀後も続く、アフターケアとサポート
弊社でご葬儀をしなくても大丈夫です。
- ご相談御困りごとがある方は

公式ラインにご登録ください。

無料であなたのかかりつけ相談窓口になります。 ↓ ↓ ↓



◆こちらから入れない方はこちらからお願いします。 ↓ ↓ ↓

https://qr-official.line.me/gs/M_171tcpoj_GW.png?oat_content=qr

セルディア館でのご葬儀

セルディア館では、どのプランをご利用いただきましても、

◆搬送料金

◆式場料金（小さな家族葬・小さな一日葬・小さな一般葬のみ）

◆ご遺体のお預かり安置（プランによって日数が異なります）

◆役所手続き代行

上記の内容は、プラン料金に含まれておりますので、ご安心ください。

※火葬を行う地域や自治体によって火葬料金が異なるため、プランに火葬料金を含めておりません。

火葬料金は別途お客様のご負担となりますので、詳しくはお問い合わせください。

お電話一本で、私たちの専門スタッフがすぐに対応いたします。

どうぞ、一人で悩まず、ご相談ください。

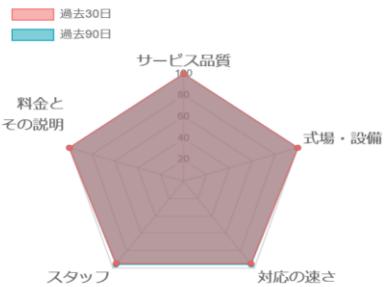
あなたの心の準備ができたら、私たちはここにいます。

総合満足度

過去30日 **97** 点 (2件中)

過去90日 **98** 点 (3件中)

項目別評価



【お客様の声】

◆神奈川県 Aさん

この度は本当に心に残るお葬式をして頂き、ありがとうございます。思いがけずインターネットで見ていてセルディア館を知りました。お電話での対応もとっても良くその時に、『何かあった時は、ここに頼もう』と決めました。やせこけた父の顔も元気だった時のように直していただき、父の顔を見た瞬間に母と泣きました。一生忘れません。お札を言いたくて何かネット上に書くところはないのか探しました。これから何をしていくかしっかり流れも教えて頂きました。ありがとうございました。

◆埼玉県 谷口さん

この度は遠くまで父を迎えて下さりありがとうございました。

しかも朝方4時。快くご対応して下さいました。

そして納得できるようにしっかりと説明もいただきました。

私達は無宗教を選びましたが、メリットやデメリットを聞かせて頂いたことで安心して当日を迎えることができました。ありがとうございました



セルディア館では、神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県一部のご葬儀を行っています。

わからないことがあつたら、ご連絡ください。

044-281-6616 24時間 365日対応

弊社でご葬儀をするしない関係なく、お客様の力になりたい。心からそう思っています。

『相手が求めていることを理解してそれを相手が正当に手に入れられる人になる。役に立つ』

そこにお金がかからなくてもお客様に役にたつことが、自分に戻ってくる。と信じています。

なのでひやかしたり、強引な方、他責にする方は逆にお断りします。

心で対応できる方のみご連絡ください。



◆株式会社セルディ

葬儀派遣会社 <https://www.celdy.jp/>

葬儀着付けを承ります。
お忙しい中でのお仕度はお客様のご自宅にお伺いいたします。

◆セルディア館

葬儀はこちらへ→ **044-281-6616**

<https://www.sougi-kazokusou.jp/>

<https://sougi110.net/>



セルディア館のご葬儀一覧

注意) 下記、画像の上をタップすると画像は拡大されて見やすくなります

プラン名	火葬式プラン	1日葬プラン	家族葬プラン	一般葬プラン
サービス	火葬	火葬・告別式	通夜・火葬・告別式	通夜・火葬・告別式
日数	1日間	1日間	2日間	2日間
人数	1~5名	1~30名	1~30名	1~50名
搬送 (寝台車、豪華車)	10kmまで	50kmまで	50kmまで	50kmまで
ドライアイス ご安置料金	1日間無料	3日間無料	3日間無料	3日間無料
付添い安置			○	○
式場代金		○	○	○
お棺・棺用布団	○	○	○	○
納骨・骨箱	○	○	○	○
祭壇		○	○	○
遺影撮影		○	○	○
役所手続		○	○	○
価格	80,000円(税別) 88,000円(税込)	298,000円(税抜) 327,800円(税込)	398,000円(税抜) 437,800円(税込)	600,000円(税抜)~ 660,000円(税込)~
ご紹介		→10,000円	→20,000円	→30,000円
事前問い合わせ	-8,000円	-10,000円	-20,000円	-30,000円
オプションサービス				
通夜料理			1名/4000円~	1名/4000円~
告別式料理		1名/4000円~	1名/4000円~	1名/4000円~
返礼品		1名/500円~	1名/500円~	1名/500円~
死化粧	40,000円~	40,000円~	40,000円~	40,000円~
送迎用バス	○別途お見積り	○別途お見積り	○別途お見積り	○別途お見積り
生花追加	○別途お見積り	○別途お見積り	○別途お見積り	○別途お見積り
お別れ花	○20,000~			
お泊り安置		○50,000	○プラン含む	○プラン含む

*式場代金は、セルディア館(200,000円)で行う場合は、無料でお貸しいたします。

注意) 上記画像の上をタップすると画像は拡大されて見やすくなります。

私が選ぶ信頼のおける終活の会社

9年前に全く想像も出来ず動脈乖離と脳梗塞を併発して右半身麻痺になったこと、その事を通じて誰でも突然最期は訪れるのだから、残された大切な人に迷惑かけないよう準備した方がいいと切に思って終活アドバイザーになった事、身の回りを整理する事でその後の人生が輝く事、そのお手伝いをさせていただきたいです ❤

◆ 会社名 株式会社ガヤード

shiehime 19641115@gmail.com

昭島市玉川町 4-2-2

HP <https://gajad.jp/>

バーコードはこちらから ↓ ↓



終活 公式ラインはこちらから ↓ ↓ ↓

公式ラインにご登録の方には、無料で『終活ノート』プレゼント

✿ まずはのぞいてみましょう！

[https://aytdsckx.autosns.app/s/qr-code.png?uid=\[\[uid\]\]](https://aytdsckx.autosns.app/s/qr-code.png?uid=[[uid]])

心の対応を求めるならこちらがおすすめです。

葬儀屋さんからのご対応も大丈夫です。

- ◆搬送車 株式会社 ジョンホース 神奈川県川崎市 044-850-9630
- ◆花屋 株式会社 武花 神奈川県横浜市 045-453-8523
- ◆返礼 株式会社 返礼屋 神奈川県綾瀬市 0467-98-7190
- ◆料理屋 株式会社 玉乃屋 東京都大田区 03-3757-5511

エピローグ

私がこの仕事を始めたのは、お友達のお母さまがなくなつた時がきっかけでした。

そのころ私は、メイクアップアーティストをやっており、雑誌やビデオ
常に前線で活躍していました。

そんな時、おともだちのお母さんがなくなり、死化粧をやってほしいと言われ
実際やつたら全くうまくいかなかつたのです。

プロのメイクアップアーティストでメイクには自信があつた私でしたが
亡くなつた肌と生きている方の肌がこんなにも違うとは・・・・

ショックを受けるほど違いました。

亡くなつたしまつた人の肌はどんどん乾燥していきます。 (ワセリンなどを塗つてもだめです)

出来上がりに納得は全くできなかつたのです。

もちろんお友達は涙を流して喜んでくれました。

でも悔しかつた。こんなにも何もできない自分に・・・

そこから、私の葬儀に対してのかかわりが大きくなりまつた。

まず死化粧の学校に行きました。

法医学者 杏林大学教授 佐藤先生の娘 佐藤琴子先生に学びました

これはTVでも取り上げられました。

そして、葬儀の派遣、司会、なんでも学びました。そしてある大手企業の葬儀派遣育成を任せられました。

でも葬儀人材の事務的な対応に今度は疑問を感じました。

「葬儀人材も接客である」

お客様が大切な方を失い、悲しみの中にいる。

そんな方を安心させる。

少しでも癒せる環境、接客が

本当は大切ではないのか・・・・

そして、そんな思いの中から、
接客のできる葬儀派遣を育てようと会社『株式会社 セルディ』を設立いたしました。

そのころの大手葬儀社は、案内業務は全て派遣でした。

今でも派遣の人材を使っていない大手葬儀社はいないでしょう。

そこで、いろんな体験、辛い経験、可愛そうなお客様を沢山見てきました。
ご葬儀は、そのお客様の内情が見えてきます。

この後、ご家族がこのご葬儀をきっかけに、仲良くなれたら、お互い今以上に思いやりを持て
たら・・・その思いを私はいつもナレーションの中に何げなく入れています。(司会)

色々な経験があったからこそ、私は今何でもできるんです。なんでもわかるんです。

葬儀に関すること、葬儀式、御寺様の紹介、葬儀の流れ、死化粧、葬儀着付け
、故人のご安置設備

葬儀を行う式場（自社ビル）、お泊りご安置（葬儀の前日にお泊りができます）

葬儀司会、追悼詩吟、全て対応できます。

司会も、私は極めようと、アナウンス学院に入っています。

電話対応も、どうゆう話し方が好印象なのか、どう話したらお客様の悩みを丁寧に聞いて差し
上げられるのか、こちらも学んでいます。

着付けも講師のお免状をもっています。

もちろん死化粧も、資格を持っていて、お顔を作ることもできます。

いろんな方がいらっしゃるんです。

細くこけてしまった方は、眼が開き、口も空いてしまいます。

そのお顔を、ふつくらとして差し上げ目を閉じ口を閉じる。

薬で髪の毛がなくなってしまった方の髪の毛もつけてあげます。

どんなことも対応できる、それは病院でやる化粧とは全く違います。

なんでも裏と表があるんですね。

でも私は、真正面から
お客様の求めていることを理解してそれをお客様が正当に手に入れられる人になる。役に立つ
そんなお客様の力になりたいと日々前進しております。
しっかりとお客様が何を求めているのか、そして失敗は許されない
大切な方と安心した中で、静かに旅立ちを見送ることができる環境を作りたいと
心から思っています。
だからこそ、公式ラインを作りました。
ここに登録することで、どんなことでも無料で相談ができる。
そんな場所は、世界中探してもないと思います。
だからこそ、心のない方は、連絡をしないでほしいと思います。
この本を手に取った方に、喜んで頂きたい。
そんな気持ちで書きあげました。
誰しもが通る道です。後悔しないように・・・・

お祈りいたします。
私にしかできないことをご提供させて頂きます。

高津川真紀



書名

著作者 高津川真紀

発行元 株式会社 セルディ

製作日 2024年3月

Copyright © 2024 maki takatsugawa